支出項目　政務活動費　研修・会議費

No.1

4月	年度日	内容	支出額(円)	累計額(円)
9	9	会議参加費振込手数料 第８４回全国都市問題会議　個性を活かして「選ばれる」まちづくり　～何度も訪れたい場所になるために～	330	330
10	12～14	第８４回全国都市問題会議　個性を活かして「選ばれる」まちづくり　～何度も訪れたい場所になるために～	395,190	395,520
		研修・会議費合計	395,520	

政務活動報告書

令和４年１１月１日

茅ヶ崎市議会
議長　加藤　大嗣　様

（会派名）公明ちがさき
（氏　名）滝口　友美
山﨑　広子
阿部　英光

政務活動の結果は、次のとおりでした。

日　　時	令和４年１０月１３日、１０月１４日
調　査　事　項 （研　修　地）	第84回全国都市問題会議 個性を活かして「選ばれる」まちづくり～何度も訪れたい場所になるために～ （出島メッセ長崎）

政務活動の結果（別紙のとおり）

神奈川県
茅ヶ崎市議会事務局
4.11.1
第　　号
収受

第84回　全国都市問題会議報告書

1　参加議員

公明ちがさき（滝口友美、山﨑広子、阿部英光）

2　日時

令和４年１０月１３日（木曜日）　午前・午後　９時３０分から午前・午後　１７時００分

令和４年１０月１４日（金曜日）　午前・午後　９時３０分から午前・午後　１１時５５分

3　開催場所

長崎県　長崎市　出島メッセ長崎

4　会議名

第84回　全国都市問題会議　個性を活かして「選ばれる」まちづくり

～　何度も訪れたい場所になるために～

5　視察概要

	（担当　滝口友美　）
視察先選定理由	人口減少社会となった今、各地方自治体にとって、移住・定住先としての選択肢になることを視野に入れたまちづくりが非常に重要になってくる。そのためにも、個性を活かした魅力ある地域づくりに必要な要素を多彩な講師による本会議から学んでいくことが大切であると考え、参加に至った。
内　　容 ・事業概要 ・効果、推移 ・課題 ・今後の方向性	基調講演　株式会社ジャパネットホールディングス代表取締役社長　高田旭人氏 ジャパネットは様々なチャンネル出の通信販売を行ってきたが、それだけではなく、地方自治体と共同で、地域の魅力的な資源を見つけ、それを徹底的に磨き上げ、その地域の活性化に貢献できると考えた。その一つとして、長崎の活性化に向け「長崎スタジアムシティプロジェクト」を進め、2024年の開業を目指している。これは、サッカーなどの試合ができるスタジアム・アリーナを作り、そこで試合だけでなくオフィススペース、商業施設、医療機関、大学院なども併設することによって、地域経済を潤すことができると考える。行政と共同することにより、民間のアイディアプラス行政の信頼性のあるインフラになることが期待される。行政だからできること、民間だからできることの両方の利点を持つ官民、そしてそこに住む地域住民と手を取りあって、地域全体の幸福の総量を増やしていきたい。

主報告　「長崎市の魅力あるまちづくり」　　長崎市長　田上富久氏

価値観がますます多様化している中で、都市部の機能を落とさないで、地方部とネットワークでつなぐことが大切だと考える。そのために必要なことは、１．価値を見つける　２．価値に気づく　３．価値を磨く　４．価値を生み出す　の４つの視点が重要である。１．価値を見つけるとは、軍艦島のように、生活していた人にとっては、日常生活の１ページに過ぎなかったものを産業革命遺産という切り口で見ることにより、世界的な価値を見出すことである。２．価値に気づくとは、市内をあることにより、特別な何かをつくるのではなく、暮らす人にとっては身近にありながらも、気づいていない価値に気づくことで、市民自らがまちへ愛着を持つことができるということである。３．価値を磨くとは、地域の資源や町並みなどを景観専門監制度を導入することによって意識の醸成等を行い、まちの価値をさらに高めることである。４．価値を生み出すとは、官民協力による新たなプロジェクトの取組や、ネガティブに捉えられていた地域課題をポジティブに捉えなおすことによって、地域活性化につなげていくことである。これらが、持続可能な地域社会の構築につながるものと考えている。

一般報告　「地域との新しい関わり方・関係人口」　島根県立大学田中輝美教授

関係人口という言葉がある。短期間の交流や観光という関わり方ではなく、長期間暮らし続けるという定住という関わり方でもない、その間にある新しい地域との関わり方だ。この新しい関わり方は、若い世代との相性が良いという点も重要なポイントに挙げられる。鳥取市は、体験型民泊施設とコミュニティスペース「体験と民泊　もちがせ週末住人の家」をたちあげた。住人は、週末だけその地域で暮らすことによって空き家の活用や地元の住民との交流を図っている。関係人口政策に取り組むためには、単に外から人を呼び込もうとするのではなく、自分の自治体の課題等を把握し、どのようにすれば「選ばれる」まちになるかをしっかりとつかんでいくことが大切である。

一般報告　「ビジョンを活かしたまちづくり」　山形市長　佐藤孝弘氏

山形市では、「健康医療先進都市」「文化創造都市」を２大ビジョンとして積極的な施策展開を行っている。「健康医療先進都市」については、山形市内に数多く立地している総合病院や山形大学医学部などによる「医療」と「健康」における強みを活かし、さらに伸ばして都市ブランドにする長期ビジョンに取り組んでいる。保健所内にシンクタンクを設置し、専門職の知見を活かし、市民の健康に関するデータを化学的に分析し、フレイル対策や減塩事業などの取り組みを進めた。そうした中で特に力を入れているのが「ウォーカブルなまちづくり」であ

る。スマートフォンアプリを利用し、歩数によって「健康ポイント」が溜まることによって、楽しみながら健康づくりに取り組むきっかけとなっている。そのため、ウォーキングしやすい消雪歩道の整備等、雪国ならではの冬でも歩きやすい街づくりを実現している。「文化創造都市」に関しては、「山形国際ドキュメンタリー映画祭」の開催や「山形交響楽団」や東北芸術工科大学などによる持続的な文化芸術活動を行っている。このようにまちが向かうべき方向をはっきりさせることによって、市民や企業が連動して同時多発的にさまざまな取り組みがすすむという現象が起きている。

一般報告　「交流の産業化」を支える景観まちづくり」

一般社団法人地域力創造デザインセンター代表理事　高尾忠志氏

長崎市は、我が国の自治体でもトップクラスの勢いで人口が減少している。市民の暮らしと経済を支える新しい産業を確立し、持続可能な地域社会と地域経済を構築することが重要な課題であり、そのために地域のオリジン（原点）をオリジナリティ（個性）に育て上げる地域戦略を実現することが必要である。そのために、市役所内に景観の専門職として「景観専門監」を設置した。このミッションは、①　長崎市が行う公共事業のデザインの指導と管理　②　長崎市職員の育成の２点であり、各事業の現場におけるOJTによって①②を一体的に進める。この「景観」というのは狭義の「景観」だけでなく、「個々の公共事業によって長崎のまちに『価値』を創造すること」をミッションとしている。具体的には、９年半の間に、長崎駅周辺整備、長崎MICE「出島メッセ長崎」、まちなか夜間景観整備、鍋冠山公園展望台など１００を超える事業を展開しており、観光客増、特に宿泊を伴う観光客増が図られた。その中で「縦割り」行政ではなくユーザーの目線で、かつ、まちを総合的に意識して事業が検討でき、長期間における事業展開に一貫して関わることができる、事業展開の中で職員の人材育成ができるという景観専門監の存在意義が確認できた。縦割り制度のなかで、分野の境界を超え、ビジョンを持って仕事に取り組む人材が自治体に多く存在している地域が、分野融合型のクリエイティブな成果を出し、より良い地域になっていく。

パネルディスカッション

コーディネーター	東京都立大学法学部教授	大杉覚氏
パネリスト	ゆとり研究所所長	野口智子氏
	山梨大学生命環境学部教授	田中敦氏
	NPO法人長崎コンプラドール理事長	桐野耕一氏
	岐阜県飛騨市長	都竹淳也氏
	兵庫県丹波市長	藤原保幸氏

	コーディネーターより、「人が動くことの理由」「幸せづくりにコミットすること」「その中での行政の役割」との問題提起があった。野口氏からは、「わが町に来て、わが町を好きになって」と呼び込む前に、住んでいる人同士が深く知り合って、お互いを尊重し、しなやかなスクラムを組むのが先である。住んでいる自分自身を磨き、その居心地のよさによそ者を混ぜてあげるのが基本なのではないかとの意見があった。田中氏からは、ワーク＆ライフスタイルの変革を加速させることが大切である。ワーケーションとは、本来は休暇期間中にも一定の仕事をする、あるいは仕事期間中に並行して休暇を取得して取ることができる仕組みだが、日本型ワーケーションは、フレックスタイムやテレワークなどの意味でつかわれている。各自治体でどのワーケーションを推進するかが大事になってくると述べた。桐野氏は、そもそも、「まち」は住む人の営みの積み重ねを染め込ませた生活空間であり、観光客が喜びそうな観光スポットではない。「まち」の良さを伝えるには、自分が誰よりもそのまちを愛することであり、それに訪れる人が共感してくれると述べた。都竹氏は、岐阜市は全国の倍のスピードで人口減少が続いている。そこで、２０１７年に「飛騨市ファンクラブ」を設立した。これは、全国の飛騨市ファンの方々とつながり、集い、語り、飛騨市をさらに楽しんでもらうコミュニティ組織である。その財源はすべてふるさと納税であり、ファンクラブ会員からの寄付額は約 8,000 万円となっている。コロナ中も、会員からの提案でオンラインツアーを企画した。人口減少時代のまちづくりのキーワードは「楽しい、うれしい、面白い」であり、この３つを追求していきたいと述べた。藤原氏は、伊丹市は２０代が住み続けたいまちの関西地域での第一位になった。また、「清酒発祥の地」でもある。しかし、それだけでなく、まちを盛り上げている主役は市民であることから、伊丹大使制度を立ち上げた。古くは作家の田辺聖子氏からアーティストの花村想太氏が選ばれている。市民主体のまちづくりを進めていくと述べた。 時間の関係でディスカッションを深めるまでには至らなかったが、多様な切り口を見せながらも、訪れる人に根っこにある地域価値をダイレクトに感じさせるような、その都市ならではの独自の戦略を構築できるかがポイントであり、それが「選び続けられる」まちづくりのヒントになるとの部分は共通していた。

考　　察 ・本市との比較 ・本市への事業導入 　の可能性 ・今後の検討内容	様々有意義な講演で会った。基調講演では、行政だけでは制限があることを実例の中で認識でき、事業に関しても過去の実例や数字からの意思決定だけでなく、採算性や民間のアイデアを活用することによって、市民目線での事業に取り組む事ができると感じた。 主報告では、田上氏の「ストーリーがあるまち」という言葉に共感した。本市も十分にストーリーがあるまちであり、その文化を改めて見直すことによって、新しい文化をつくっていくことで、いままでの知名度を十分活かした持続可能な地域社会の構築につなげていけると考えた。 一般報告やパネルディスカッションを通じて、国内のネームバリューにとどまらず、インターナショナルな視点での取り組みが本市においても重要であると感じた。また、本市にワーケーションを誘致するにしても、どのように、誰を対象にするのかも大切であり、休暇の分散化を進める新しい旅行スタイルのワーケーションの場としては、まだまだ課題が多いと感じた。そして、今後の本市の方向性として、行き当たりばったりではなく、将来ビジョンをしっかりと持ち、まちづくりの共通用語としていかなければならないと考えた。
備　　考	

＜報告書作成にあたっての注意事項＞

・視察先の担当者の氏名等を記載する場合は視察先の情報公開基準に則るとともに、必ず記載の可否の確認をお願いいたします。

※茅ヶ崎市の基準では管理職以上は公開です。

※民間企業等の場合は上記の限りではないので十分気を付けてください。

・５視察概要の項目については、視察内容、必要に応じて修正追加等してください。

出　張　旅　費　計　算　書

適　用	第84回全国都市問題会議 出島メッセ長崎 長崎市	出張者 氏　名	公明ちがさき 滝口　友美　山崎　広子　阿部　英光
期　間	令和4年10月12日から 10月14日まで 3日間	随行者 氏　名	

経　路	日数	泊数	キロ数	運賃(円)	急行料金(円)	金額(円)
茅ヶ崎―横浜 (JR東海道本線)	1	1	29.8	510	0	510
横浜 ― 羽田空港第1第2ターミナル (京急本線)			20.7	370	0	370
羽田空港―長崎空港 (ＪＡＬ６０５)			981	44,170	0	44,170
長崎空港 ― 長崎駅前ターミナル (長崎空港線バス)			40	1,000	0	1,000
会場（出島メッセ長崎）	1	1		0	0	0
長崎駅前ターミナル ― 長崎空港 (長崎空港線バス)	1		40	1,000	0	1,000
長崎空港 ― 羽田空港 (ＪＡＬ３２７４)			981	44,170	0	44,170
羽田空港第1第2ターミナル ― 横浜 (京急本線)			20.7	370	0	370
横浜 ― 茅ヶ崎 (JR東海道本線)			29.8	510	0	510
計	3	2	2,143	92,100		92,100

	日　数	単　価(円)	金　額(円)
日　当	3	2,400	7,200
宿泊料	2	9,215	18,430
夕食代	2	2,000	4,000
大会参加費	1	10,000	10,000
合　計	¥131,730　×	3 人	395,190

宿泊先　ベルビュー長崎出島(朝食付き)

航空機代　Jクラス利用のため航空機代より2000円マイナス

※ホテルから会場まで徒歩行程で1．5kmを超えないため、路面電車代の計上なし

No.0751

会議参加費 領収書

公明ちがさき 様

金 １０，０００円

但、「第 84 回全国都市問題会議」に係る会議参加費として
上記正に領収いたしました。

令和４年 10 月 13 日

第 84 回全国都市問題会議実行委員会
会 長 田 上 富 久

第84回全国都市問題会議実行委員会会長之印

No.0786

会議参加費 領収書

公明ちがさき 様

金 １０，０００円

但、「第 84 回全国都市問題会議」に係る会議参加費として
上記正に領収いたしました。

令和４年 10 月 13 日

第 84 回全国都市問題会議実行委員会
会 長 田 上 富 久

第84回全国都市問題会議実行委員会会長之印

No.0803

会議参加費 領収書

公明ちがさき 様

金 10,000円

但、「第84回全国都市問題会議」に係る会議参加費として
上記正に領収いたしました。

令和4年10月13日

第84回全国都市問題会議実行委員会
会長 田上富久

第84回全国都市問題会議実行委員会会長之印

ご利用明細 三菱UFJ銀行

ご来店いただきありがとうございます。
このご利用明細は必ずお持ち帰りください。

年月日	取扱店番	お取引内容
040909	0261260	お振り込み

受付通番	銀行番号	支店番号	口座番号
0025[redacted]			＊＊＊

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

お取引金額
¥30,000＊

お取扱いできない場合	残高
	＊ ＊ ＊

電信	振込手数料	おつり
9,33	¥330＊	

お振込先・お受取人 ご依頼人

みずほ銀行
十二号支店
普通 9515241
カ)JTB様

コウメイチガ゛サキ様

JAPAN AIRLINES

WEB cee61ca3627f6d8ecb22bf2462e852b2
2023年04月23日 14:12

領収書
RECEIPT

下記の金額正に領収いたしました。

RECEIVED FROM : 公明ちがさき 様
金 額
THE SUM OF : ¥ 92,340 円(税込み)

但し	IN PAYMENT OF	運賃として AIR FARE-FREIGHT
航空券番号	TICKET NUMBER	1312445817971
航空券発行日	DATE OF ISSUE	2022年09月28日
発行所	PLACE OF ISSUE	日本航空
備考	REMARKS	現金・クレジットカード・その他のお支払い分を含みます

日本航空株式会社
Japan Airlines Co., Ltd.

ご利用区間・運賃明細

お客様	搭乗日	出発地	到着地	便名	利用運賃	金額
ABE HIDEMITSU 様	2022年10月12日(水)	東京(羽田)	長崎	JAL605	往復割引(クラス J)	¥46,170
	2022年10月14日(金)	長崎	東京(羽田)	JAL3274	往復割引(クラス J)	¥46,170

合計金額	¥92,340

JAPAN AIRLINES

WEB bc4adcc114dd2ed12d06dc3c87d46e2b
2023年04月23日 14:15

領収書
RECEIPT

下記の金額正に領収いたしました。

RECEIVED FROM : 公明ちがさき 様
金額
THE SUM OF : ¥ 92,340 円(税込み)

但し	IN PAYMENT OF	運賃として AIR FARE-FREIGHT
航空券番号	TICKET NUMBER	1312445817972
航空券発行日	DATE OF ISSUE	2022年09月28日
発行所	PLACE OF ISSUE	日本航空
備考	REMARKS	現金・クレジットカード・その他のお支払い分を含みます

日本航空株式会社
Japan Airlines Co., Ltd.

ご利用区間・運賃明細

お客様	搭乗日	出発地	到着地	便名	利用運賃	金額
TAKIGUCHI TOMOMI 様	2022年10月12日(水)	東京(羽田)	長崎	JAL605	往復割引(クラス J)	¥46,170
	2022年10月14日(金)	長崎	東京(羽田)	JAL3274	往復割引(クラス J)	¥46,170

合計金額	¥92,340

JAPAN AIRLINES

WEB 5de6ef061f70174d58559e483b6a07b8
2023年04月23日 14:17

領収書
RECEIPT

下記の金額正に領収いたしました。

RECEIVED FROM : 公明ちがさき 様
金額
THE SUM OF : ¥ 92,340 円(税込み)

但し	IN PAYMENT OF	運賃として AIR FARE-FREIGHT
航空券番号	TICKET NUMBER	1312445817970
航空券発行日	DATE OF ISSUE	2022年09月28日
発行所	PLACE OF ISSUE	日本航空
備考	REMARKS	現金・クレジットカード・その他のお支払い分を含みます

日本航空株式会社
Japan Airlines Co., Ltd.

ご利用区間・運賃明細

お客様	搭乗日	出発地	到着地	便名	利用運賃	金額
YAMAZAKI HIROKO 様	2022年10月12日(水)	東京(羽田)	長崎	JAL605	往復割引(クラス J)	¥46,170
	2022年10月14日(金)	長崎	東京(羽田)	JAL3274	往復割引(クラス J)	¥46,170

合計金額	¥92,340

再発行

ホテル ベルビュー長崎出島
Hotel BELLEVIEW Nagasaki Dejima

領 収 書

NO. 172173 963　　23/04/25 15:07
[DB]

部屋No.　1120

ご利用期間　2022/10/12～2022/10/14

お 名 前　　公明ちがさき　　様

ご請求額　　18,430　円
ご入金額　　18,430円（現金）

上記金額を領収致しました。
◆ご利用明細◆

10/12 ご宿泊代	9,215円
10/13 ご宿泊代	9,215円
(内消費税	1,674円)
合計	18,430円
10%対象	¥18,430
(内消費税	¥1,674)

※印がついている商品は軽減税率対象となります。

Hotel Belleview Nagasaki Dejima

長崎県長崎市江戸町1番20号
TEL：095-826-5030
FAX：095-826-5051

印紙税申告納
付につき長崎
税務署承認済

再発行

ホテル ベルビュー長崎出島
Hotel BELLEVIEW Nagasaki Dejima

領 収 書

NO. 172174 963　　23/04/25 15:08
[DB]

部屋No.　1123

ご利用期間　2022/10/12～2022/10/14

お 名 前　　公明ちがさき　　様

ご請求額　　18,430　円
ご入金額　　18,430円（現金）

上記金額を領収致しました。
◆ご利用明細◆

10/12 ご宿泊代	9,215円
10/13 ご宿泊代	9,215円
(内消費税	1,674円)
合計	18,430円
10%対象	¥18,430
(内消費税	¥1,674)

※印がついている商品は軽減税率対象となります。

Hotel Belleview Nagasaki Dejima

長崎県長崎市江戸町1番20号
TEL：095-826-5030
FAX：095-826-5051

印紙税申告納
付につき長崎
税務署承認済

再発行

ホテル ベルビュー長崎出島
Hotel BELLEVIEW Nagasaki Dejima

領 収 書

NO. 172172 963　　23/04/25 15:07
[DB]

部屋No.　1109

ご利用期間　2022/10/12～2022/10/14

お 名 前　　公明ちがさき　　様

ご請求額　　18,430　円
ご入金額　　18,430円（現金）

上記金額を領収致しました。
◆ご利用明細◆

10/12 ご宿泊代	9,215円
10/13 ご宿泊代	9,215円
(内消費税	1,674円)
合計	18,430円
10%対象	¥18,430
(内消費税	¥1,674)

※印がついている商品は軽減税率対象となります。

Hotel Belleview Nagasaki Dejima

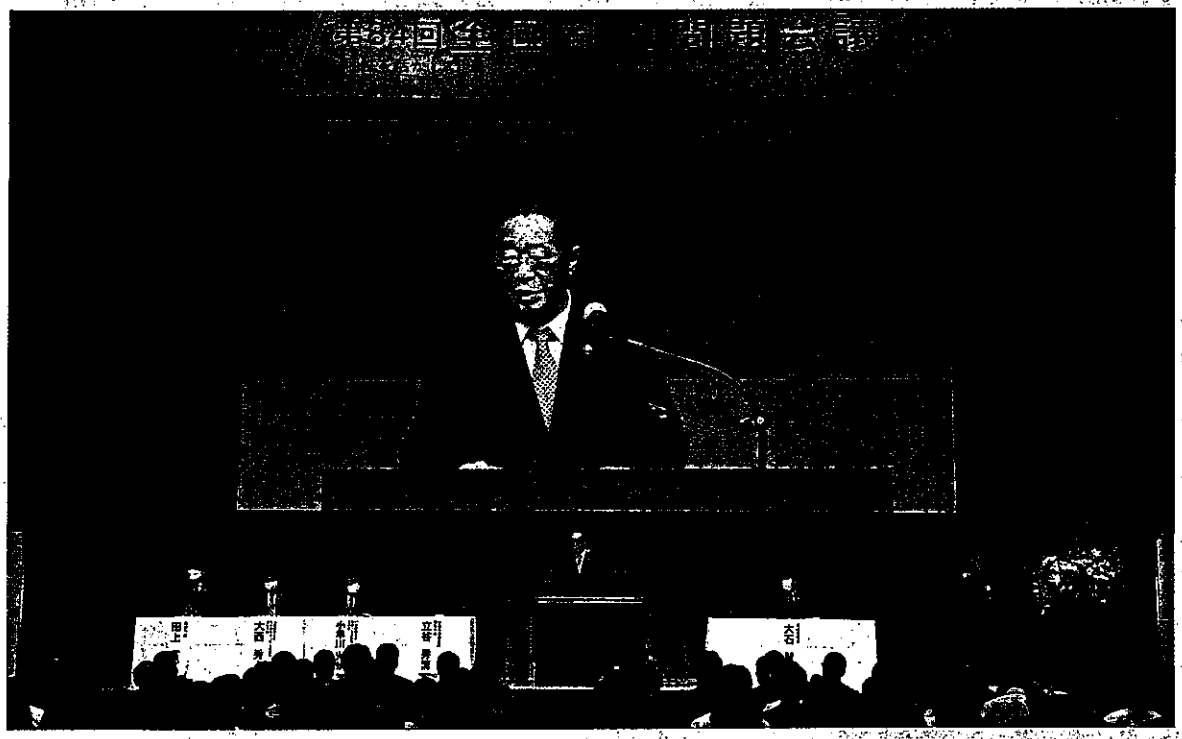
長崎県長崎市江戸町1番20号
TEL：095-826-5030
FAX：095-826-5051

印紙税申告納
付につき長崎
税務署承認済

第84回
全国都市問題会議報告

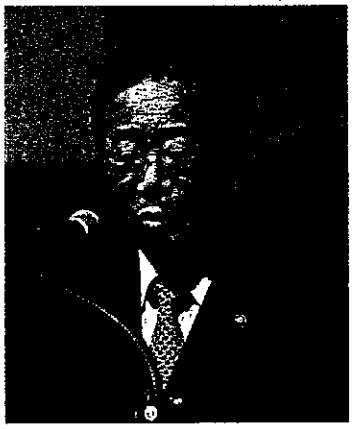
個性を活かして「選ばれる」まちづくり
～何度も訪れたい場所になるために～

（公財）後藤・安田記念東京都市研究所　主任研究員　田中暁子（たなかあきこ）



2022年10月13日（木）、14日（金）の2日間、第84回全国都市問題会議（全国市長会、（公財）後藤・安田記念東京都市研究所、（公財）日本都市センター、長崎市主催、（公財）全国市長会館協賛）が、出島メッセ長崎において開催された。今回の会議は「個性を活かして『選ばれる』まちづくり～何度も訪れたい場所になるために～」をテーマに、全国から市区長、市区議会議長、市区議会議員、市区職員など約1900人にのぼる多くの参加者を得た。第1日は、午前中に開会式、基調講演と主報告、午後には一般報告が行われた。第2日には、午前中はパネルディスカッションと閉会式、午後には希望者による行政視察が行われた。

開会式



開会あいさつを行う立谷会長

開会式

開会式では、主催者を代表して全国市長会会長の立谷秀清・相馬市長による開会あいさつ、続いて田上富久・長崎市長による開催市市長あいさつがあった。また、大石賢吾・長崎県知事（柿本敏晶・長崎県統轄監が代読）から祝辞をいただいた。

基調講演

高田旭人・株式会社ジャパネットホールディングス代表取締役社長兼CEOは「民間主導の地域創生の重要性」と題して基調講演し、長崎を、さらには全国の地域を盛り上げるための民間企業の役割について、同社が進めている「長崎スタジアムシティプロジェクト」などを通じて紹介した。

ジャパネットは通信販売事業を通じて、世の中にある良いものを「見つける」「磨く」「伝える」ことを培ってきた。近年は、その三つのステップを地域で活かすために、二つ目の事業の柱としてスポーツ・地域創生事業に取り組んでいる。

地域創生に取り組むきっかけは、2017年にプロサッカーチームのV・ファーレン長崎を完全子会社化したことである。2020年には長崎初のプロバスケットボールクラブ「長崎ヴェルカ」を立ち上げ、現在は、長崎駅から徒歩10分に位置する三菱重工業長崎造船所幸町工場跡地（約7ha）でスタジアム・アリーナや商業施設、ホテルなどからなる「長崎スタジアムシティプロジェクト」を進め、2024年の開業を目指している。

「長崎スタジアムシティプロジェクト」の背景として、長崎市は、人口の転出超過が多いという事実がある。長崎から東京や大阪、福岡に出ていかずに、全国で戦える、さらには、幸せを感じられる仕事を生みだせないか。一度長崎から出て行ったとしても、将来戻ってきたときに、楽しみが増えるようなまちをつくれないか。そうした思いがスタジアムシティプロジェクトの原動力となっている。

サッカーチームもバスケットボールチームも、ホームゲームはそれぞれ年間約20日ほどである。そのわずか20日のためにスタジアムを建設しようとすると、収支を合わせることが難しい。しかし、公平性を重視する行政ではできないような、民間企業ならではのやり方で、スタジアムシティ全体の「幸福の総量を最大化する」ことが考えられている。例えば、食事も含めて楽しい時間を過ごせるVIPルームによって収益を確保することで、臨場感あふれるゴール裏席は相対的に安価にすることができる。また、試合がない日は、併設された保育園の子どもたちが芝の上を走り回ったり、スタジアムのVIPルームをスタジアムが臨めるホテルとして活用したり、民間企業ならではの柔軟性で、さまざまなアイデアを検討している。

主報告

田上富久・長崎市長は「長崎市の魅力あるま

基調講演

高田・株式会社ジャパネットホールディングス代表取締役社長兼CEO

主報告

田上・長崎市長

ちづくり」と題し、長崎市で進行中のさまざまなまちづくりの取り組みを説明した。

長崎市では、人口減少下で平成の市町村合併が行われ、市域が広がった。人口密度の低下にともなうさまざまな課題に立ち向かうために、「ネットワーク型コンパクトシティ長崎」という考え方に基づき、活力と暮らしやすさを維持しようとしている。そうした中で、都心部の機能を落とさず、向上させていくことは大事であり、長崎市の都心部では現在、長崎駅周辺（陸の玄関）、スタジアムシティ、松が枝周辺（海の玄関）、まちなか（母屋）でまちづくりの動きが進んでいる。

陸の玄関、海の玄関を大事にする背景には、長崎の「交流のまち」としての歴史がベースにある。長崎学の創始者である古賀十二郎（こがじゅうじろう）の「港あり　異国の船をここに招きて　自由なる町をひらきぬ　歴史と詩情のまち長崎　世界のナガサキ…」という言葉にあるように、長崎は開港から現在まで、港を通じて交流をしながら発展してきたまちである。南蛮船、出島・唐人屋敷、居留地の時代、上海航路の時代、観光都市の時代と、時代によって交流の形は変わり、現在は、時代の変革期を迎えて「21世紀の交流都市」に進化しようとしている。

まちの玄関だけでなく、まちなか（母屋）の魅力や価値を高めていかなければいけない。そして、近年では価値観がますます多様化しており、新たな価値を求めて大都市から地方へと新たな人の流れも生まれ始めている。

野母崎（のもざき）地区で発見された恐竜の化石からは「価値を見つける」こと。長崎市に散らばる魅力を見つけながらまち歩きをする「長崎さるく」（「さるく」とは「ぶらぶら歩く」という方言）の取り組みと、軍艦島やキリシタン関連遺産からは「価値に気づく」こと。景観専門監制度からは「価値を磨く」こと。「長崎スタジアムシティプロジェクト」や長崎大学が計画しているBSL（バイオセーフティレベル）4施設、若者が始めた旅のサブスク施設HafH（ハフ）、市民団体が取り組んでいる「さかのうえん」からは「価値を生み出す」こと。長崎市では、これらの四つの視点から、まちの「価値」を見つめ直す取り組みが行われている。こうして、長崎らしい、長崎にあった暮らしやすさを目指したまちづくりが進められている。

一般報告

第1日の午後は、3題の一般報告があった。

まず、田中輝美・島根県立大学地域政策学部准教授が、「何度も訪れたくなる場所　都市の新たな魅力と関係人口」と題した報告を行い、人口減少社会における担い手不足という課題に対し、「つながり」をつくることで立ち向かう可能性が示された。

「もちがせ週末住人の家」（鳥取市用瀬町（もちがせちょう））は空き家を使ったゲストハウスである。「週末住人s」として登録した学生や若手社会人が、週末になると定期的に通って、地元住民に混じって地域・集落の年中行事に参加するだけでなく、

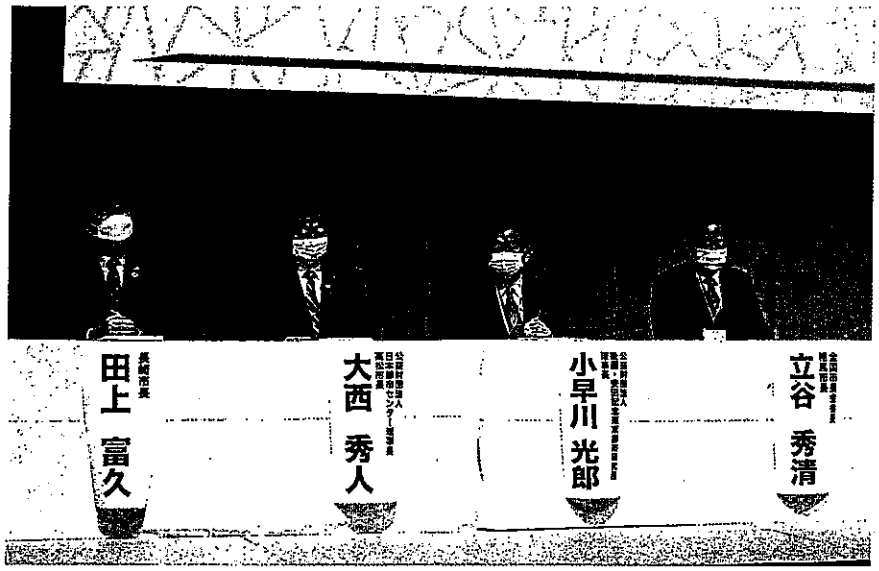
一般報告

田中・島根県立大学地域政策学部准教授

佐藤・山形市長

髙尾・一般社団法人地域力創造デザインセンター代表理事

おのおのの得意分野や興味を活かした取り組みをしている。「週末住人s」と住民が一緒に食卓を囲む「週末なべ部」も定期的に開催されている。「草刈り応援隊」(雲南市)は、約50人の草刈り応援隊が、年に3回通ってくる。草刈りで汗をかいた後にはおいしいお米を食べて、住民と交流する。「INAKAイルミ」(邑南町)では、廃線となったJR三江線の宇都井駅がすてきにライトアップされ、イルミネーションを見るだけでなく、飾り付けや片付けに協力して一緒に



働くツアーが行われている。

若い世代を含めた多世代が何度も通ってくるポイントとして、①名前が覚えられる規模(量より質)、②準備から片付け、打ち上げまで一緒に(脱・お客さまは神様)、③住民の思いや背景も伝える(ストーリー化)がある。東京生まれ、東京育ちの人たちは「ふるさと難民」となっており、ふるさと=つながりに憧れがある。つながりがあるということが若い世代にとっては価値であり資源となっている。関係人口という言葉は2016年ごろに生まれた。この言葉の背景には、人口の供給サイドである都市住民はつながりを求め、需要サイドの過疎地域は人口減少に直面し「よそ者」を歓迎するようになったという二つの変化がある。関係人口は過剰に奪い合わなくてよく、限られた担い手を共有(シェア)することができる。地域を野球チームに例えると、関係人口は「助っ人外国人」である。自分たちのチームの課題や戦力を把握した上で、どんな助っ人外国人が必要なのかをイメージし、力を合わせてチームをつくろうとすることが必要である。

続いて、佐藤孝弘・山形市長は「ビジョンを活かしたまちづくり~『選ばれる山形市』を目指して」というタイトルの下、「健康医療先進都市」と「文化創造都市」という2大ビジョンに基づく「選ばれるまち」となるための政策の一端を報告した。

「健康医療先進都市」の具体化のうち、①「医療」「先進」については、市立病院済生館の充実と山形大学医学部との連携によって推進している。②「健康」については、市民の健康寿命延伸が最大の課題となっており、「歩くこと」とそれを補完する公共交通の充実をまちづくりの中心に据えている。

歩数によって「健康ポイント」がたまる「健康ポイント事業SUKSK(スクスク)」は、9000人近くの市民が登録し、楽しみながら歩く習慣を身に付けている。また、400年前からの疎水である「山形五堰」を活かしながら、回遊性の高いまちづくりを進めている。五つの堰のうちの一つである「御殿堰」は、高度経済成長期に暗渠化されてしまったが、まだ表に出ている部分は活かし、ふたが閉まっているところはふたを開け、堰沿いを歩ける魅力的なまちにしていくというビジョンがグランドデザインの中で示されており、少しずつ整備が進んでいる。冬でもウォーキングできるように消雪道路のネットワーク化も進められているし、冬でも子どもが、しかも障がいの分け隔てなく遊べるように屋内型児童遊戯施設「シェルターインクルーシブプレイス コパル」がオープンしている。さらに、令和3年3月に策定された「山形市地域公共交通計画」に基づくさまざまな取り組みや、山形市のもう一つの将来ビジョンである「文化創造都市」に基づく山形国際ドキュメンタリー映画祭の開催や拠点施設「やまがたクリエイティブシティセンターQ1(キューイチ)」などの紹介もあった。そして、ビジョンを掲げた上で、それを具体化する事業・政策を次々と

展開し、それに呼応して市民・企業などがその方向性に合致する取り組みをはじめ、まちの個性がより濃くなるというステップが示された。

三つ目の一般報告は、高尾忠志・一般社団法人地域力創造デザインセンター代表理事から「『交流の産業化』を支える景観まちづくり～長崎市景観専門監の取り組み～」と題して行われた。長崎市景観専門監とは、2013年度に設置された景観の専門職である。長崎市は「100年に1度のまちづくり」と呼ばれる、大規模な事業によってまちが大きく更新される時期を迎えている。その一つ一つの公共事業に少しずつ工夫をして価値を高めて、それを積み重ねて行くという景観専門監のミッションを通じて、公共事業デザインの指導・管理と、職員の人材育成を行っている。

まず高尾氏は、「マズローの欲求5段階説」を引き合いに出し、「選ばれる地域」になるためには、「生理的欲求」「安全の欲求」といった「低次の欲求」だけではなく、「社会的欲求(帰属欲求)」「承認欲求」「自己実現欲求」といった「高次の欲求」が満たされることが重要であることを指摘した。そして、「高次の欲求」が満たされる空間づくり、その場所でしか享受できない価値を生み出す景観づくりについて、長崎市での実例を紹介した。

平和公園爆心地ゾーンエントランス改修では、過去の公園整備計画からデザインの意図をくみ取ることや、道路区域と公園区域の境界を意識しないこと。鍋冠山公園展望台リニューアルでは、世界遺産の五つの構成要素が展望台から見えることが分かったので、それらを見渡すような形でスロープを登っていくことや、障がい者の動線を分けないこと。稲佐山山頂電波塔ライトアップでは、「観光客はもちろんだけれども、市民にとっても誇れる日常風景にならなければいけないのではないか」という考えの下、長崎の歳時記や時間によって変化するライトアッププログラムを考えること。こうしたことが、長崎市の担当職員と景観専門監による現場確認・議論によって共有され、個々のプロジェクトがブラッシュアップされていった。

パネルディスカッション

第2日の午前は、大杉覚・東京都立大学法学部教授をコーディネーターとして、野口智子・ゆとり研究所所長、田中敦・山梨大学生命環境学部教授、桐野耕一・NPO法人長崎コンプラドール理事長、都竹淳也・岐阜県飛騨市長、藤原保幸・兵庫県伊丹市長によるパネルディスカッションが行われた。

はじめに大杉氏は次のことを指摘した。①移住、観光地訪問、関係人口などで、「人が移動する」ときの選択基準は何なのか。基調講演で高田氏が「幸せ」ということを語ったが、コロナ禍で求める精神的欲求が様変わりしてきた中で「幸せ」とはどういう「幸せ」なのだろうか。②単に幸せを感じられれば良いということではなく、幸せづくりに自身がコミットすることが大切である。③幸せづくりを誰か一人がするのではなく、みんなでシェアしていく。その中での行政の役割は何か。このような問題提起を受けて、議論が始まった。

野口氏は、その土地に住む人、一人一人が育つことの重要性を指摘し、まちづくりを頑張っている人たち同士が出会い、つながり、成長している事例として、雲仙市における「雲仙人(くもせんにん)プロジェクト」と紀の川市における「フルーツツー

リズム」を紹介した。

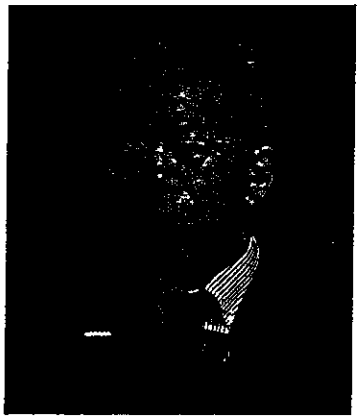
田中氏は、「ワーケーション」という言葉の日本における変遷を報告した。ワーケーションという言葉の知名度が一気に上がったのは、2020年7月に菅官房長官(当時)が政府として推進方針を発表したことに端を発する。当初は「旅行需要の平準化と新たな旅のスタイルの促進」が目的であったが、その後、いろいろと形を変えており、現在では「合宿型」「サテライトオフィス型」「地域の課題解決型」などもワーケーションになっており、自治体で「ワーケーションを推進する」という時に、誰を対象にするのかが難しい状況になっていることが指摘された。

桐野氏は、2006年に開催された日本初となるまち歩き博覧会「長崎さるく博'06」をきっかけに生まれた「長崎さるく」と「まちづくり」について報告した。「長崎さるく」では普通の市民が「まち歩きガイド」となり、まちにやってきた人たちに思いっきり長崎自慢をしておもてなしをする。まちを歩くということは、まちを見つめるということであり、長崎のまちに暮らしている人たちと一緒にまちを歩くことで、長崎のまちを訪れた人が自分たちのまちを振り返るきっかけにもなり、他のまちの人々にも大きな影響を与えている。

都竹市長は、飛騨市における関係人口の取り組みを報告した。飛騨市は2017年に「飛騨市ファンクラブ」を設立し、会員は47都道府県にわたり、その数は2022年10月現在、1万

パネルディスカッション

コーディネーター



大杉・東京都立大学法学部教授

パネリスト

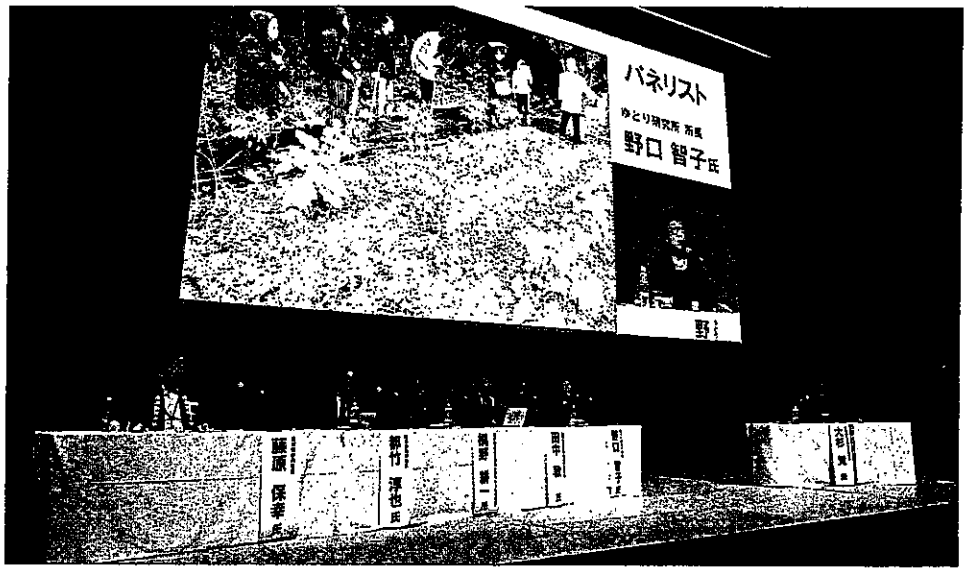
野口・ゆとり研究所所長

田中・山梨大学生命環境学部教授

桐野・NPO法人長崎コンプラドール理事長

都竹・飛騨市長

藤原・伊丹市長



人を超えている。東京、大阪、岐阜で会員が集まり交流する「飛騨市ファンの集い」や、会員からの提案に基づいて「飛騨市ファンの集いin飛騨市」が開催された。こうした活動を行う中で、自主的に飛騨市に来てイベントの手伝いをする人が現れ始めた。2020年4月には、飛騨市を手伝い、関わりを持ちたいファンの方々と、市内で関わってもらえる課題をマッチングさせる関係案内所「ヒダスケ!」がスタートした。プログラム(困りごと)の提供者は「ヌシ」、参加者は「ヒダスケ」さんと呼ばれ、2022年10月までの約2年半でプログラム数は143、参加人数は1185名となっている。ヌシの意見では、人手不足解消もあるが、「飛騨を愛する方たちと出会えてうれしい」ということが大きい。

藤原市長は、伊丹市民に、伊丹のまちに対して誇りと愛着を持ってもらう、シビックプライドを醸成するためのさまざまな取り組みを報告した。伊丹市にゆかりの深い著名人に、伊丹の良さをアピールしてもらう「伊丹大使」は、2008年度から始まったもので、田辺聖子さん、田中将大さん、南野陽子さん、有村架純さん、Da-iCEの花村想太さんなどが就任している。また、伊丹市は「清酒発祥の地」であり、建築年が確認できる日本最古の酒造とされる「旧岡田家住宅・酒蔵」が保存されており、2020年に「日本遺産」に認定された。隈研吾氏が手掛ける初めてのZEB(ゼロエネルギービルディング)建築である新市庁舎など、「行きたい」まちに選ばれるためのイメージ戦略・PR戦略が紹介された。

以上のパネリストの報告を受けて、ディスカッションが行われた。その中では、「人は人に会いに行く」こと、訪問者を受け入れる地域の方々が育つこと、訪れた人もその土地によって育って帰るような、磨きあう関係が重要であることなどが共有された。

閉会式

続いて閉会式では、次期開催市の熊谷雄一・八戸市長のあいさつ、(公財)後藤・安田記念東京都市研究所の小早川光郎理事長の閉会あいさつが行われた。

行政視察

午後の行政視察は、6コースに分かれて行われた。わが国最初の近代西洋式病院である長崎(小島)養生所などを巡る長崎の医学・感染症対策視察と、居留地路地裏などを巡る歴史文化を活かしたまちの魅力視察の2コースは、「長崎さるく」ガイド付きで行われた。ジャパネットグループがサッカースタジアムを中心に建設を進めている「長崎スタジアムシティプロジェクト」、ティラノサウルス科大型種の化石が国内で初めて発見された野母崎にオープンした「長

崎市恐竜博物館」など、今回の講演中に紹介された場所を実際に訪ねるコースや、AR（拡張現実）を使用した平和学習アプリによる「さるく」を実際に体験できるコース、9月23日に西九州新幹線が開通したばかりのJR長崎駅と今回の会場となった出島メッセ長崎を巡るコースなど、会議の内容とリンクした場所をそれぞれ視察した。

鶴鳴学園・長崎女子高等学校龍踊（じゃおどり）部による「龍踊り」の披露

◆◆◆◆◆

今回の会議は、コロナ禍による2回の中止を経て、3年ぶりに開催された。この数年間、新型コロナウイルスにより、人と人が物理的な距離を取ることを強いられてきたわけであるが、「つながり」や交流が、人口減少社会という課題に立ち向かう上で非常に重要であることが確認された。田中輝美氏が紹介した鳥取市・雲南市・邑南町の事例や、都竹市長が紹介した「ヒダスケ！」の事例のように、地域に課題があるということ自体が「つながり」のきっかけとなり、外部の人たちが何度も通うようなケースもある。田上市長が指摘したように、まちづくりにおいて「天の時・地の利・人の輪」は非常に重要である。それぞれの地域が、時代認識をきちんとし、自分の地域の課題をきちんと把握すること、そして、行政・市民・民間・大学などさまざまなまちづくりのプレーヤーが成長することが、「何度も訪れたい場所」として選ばれるために必要であろう。参加者がこの会議の成果を地元に持ち帰り、おのおのの地域で、個性を活かして「選ばれる」まちづくりが行われることを期待したい。

閉会式

閉会あいさつを行う小早川・理事長

次期開催市のあいさつを行う熊谷・八戸市長